

ルワンダ通信④(トビタテ生の北村さんの活動レポート)

アフリカ・ルワンダに留学した、北村美月さんが8月に書いてくれた最終レポートを、ご紹介します。

北村さんは、12月15日(木)の報告会で話し手として登場しますので、楽しみに！

みなさま、こんにちは。日本は梅雨が明け、暑い日が続いていることと思います。先日6日に広島、そして9日には長崎の原爆の日を迎えました。現在ルワンダには私の他にもう1人、広島出身の日本人学生が留学に来ています。彼女は今年初めて8月6日を広島以外の場所で迎えたそうです。今は亡き彼女の祖父は被爆者であり、いつも彼女に戦争の恐ろしさ、そして平和の大切さを語り、それが彼女の平和学やアフリカへの興味につながったと話してくれました。



意外かもしれませんが、ルワンダ人に日本から来たことを伝えると、「私、日本の都市いくつか知っているよ！東京、広島、長崎、それに沖縄！」という答えが返ってくるのがよくあります。ルワンダの学校では広島と長崎について勉強するようで、多くの人が過去に原爆が落とされた場所であることを知っています。また、沖縄の米軍基地問題のこともニュースを通じてよく知っています。しかし、日本人の中でそれらの問題に関心を持っている人は多くないのが現状ではないでしょうか。自国の問題に無関心な日本人がいることを知ったあるルワンダ人の友達は、「僕はルワンダに住んでいるけど、沖縄の問題に興味を持ってメディアをチェックしているよ。その問題が遠く離れた場所で起こっていて自分に影響がないって理由だけで無関心でいて良いとは思わないな。」と言っていました。

私自身、留学に来たばかりの頃はルワンダの虐殺や周辺諸国のことなど、ルワンダに来たからこそ学べることを学ぼうと必死でした。しかし、彼の言葉で自分がいかに日本に関して無知か、そしてアフリカにばかり目を向けて自分の国で何が起きているかをきちんとチェックしていないことに気付かされました。それからは日本について調べて考える時間をつくるようにし、先ほど紹介した広島出身の日本人学生と「広島と継承」というテーマのワークショップを企画したり、授業で沖縄の米軍基地に対する非暴力運動について発表したりと、日本について発信し、ルワンダの学生と一緒に考えてディスカッションする機会を持つことができました。

実際に現地に行ってみないと分からないことは多いですが、反対に離れてみて分かることもあることに気付きました。「日本にもホームレスの人はいるよ」とルワンダの友達に話すとみんな驚きますが、日本も他の国と同様にたくさんの問題を抱えています。日本に帰ってからは、まだ訪れたことのない長崎に行き、沖縄の基地反対運動に参加して、自分の目で見て体で感じて勉強したいと思います。

1年間の留学も残すところあと1ヶ月半ほどとなり、今回がルワンダからの最後のお便りになりました。外大からは私と入れ違いで2人の日本人留学生がルワンダに来ることが決まりました。帰国後に留学報告会などをいくつか予定しているので、そこでルワンダについて、留学についてもっとお話しできたらと思っています。今まで読んでいただきありがとうございました。

(国際社会学部アフリカ地域専攻3年 北村美月)

日時: 2016年12月13日